ＮＯ．１６　　令和７年１２月１１日　東彼杵町立千綿小学校長　中路　知恵

千綿っ子だより

ちからを合わせて
わらい声あふれる
たのしい学校

ルールは何のため？だれのため？

「今、あたったやろ！」
「あたってないし！」

ドッジボールは、子供たちに人気の遊びです。昼休み、学級全員でドッジボールをして遊んでいる光景をよく見かけます。ある日、私も子供たちの声に引き寄せられ、運動場に出てみると、３年生の子供たちから、「校長先生、審判をしてください」と誘われました。

２チームに分かれてゲームがスタートし、みんなで楽しく遊んでいたとき、「あたった、あたってない」で言い争いが起きました。ボールを投げた人は当てたと思っている、投げられた人は当たっていないと思っている、双方で主張がずれた場面です。

子供たちみんなが、私のジャッジを待っています。私は、「アウト」とジャッジしました。すると、「あたってない」といった子供は、素直に審判のジャッジに従い外野に出て、すぐにまた、みんな楽しく遊びを続けることができました。実はアウトではなかったかもしれませんが、審判のジャッジには従うというルールをきちんと守ることができた場面でした。

ここで、もし、言い争いが続いていたらどうなるでしょう。アウトのジャッジに、いつまでも文句を言っていたらどうなるでしょう。「あの時は当たっていたのに、当たってないと嘘ついたよね」と陰口を言ったらどうなるでしょう。

みんなで楽しむ時には、みんなが楽しむことができる言動が一人一人に求められます。この場面では、どのような言動がふさわしいのか、子供たちは遊びの中でも学んでいます。千綿っ子たちは、大人になって社会の中で人と共に生活をしていく時、ルールを守って気持ちよく生活できる力を蓄えていっています。３年生の集団遊びの様子を見て、改めてそう感じたある日の昼休みでした。今度は、校長の審判なしでも、自分たちだけで楽しく遊ぶことができるでしょうか・・・きっとできると思います。

体育サポーター事業：３年生以上を対象に、陸上の専門家からハードル走を指導していただきました